

令和6年度 第1回東郷町地域ケア推進会議：議事録

日時	令和6年5月24日（金）14時00分～15時30分
場所	東郷町役場2階 大会議室
出席者	<p>委員 ※敬称略、順不同</p> <p>佐藤裕美 薬剤師（東郷町薬剤師会）</p> <p>福島美佐子 訪問看護師（東郷町訪問看護ステーション連絡協議会）</p> <p>古橋完美 瀬戸保健所 健康支援課</p> <p>森本美香 健康福祉部 健康保険課</p> <p>磯村達巳 東郷町社会福祉協議会</p> <p>中村安裕 東郷町北部地域包括支援センター</p> <p>荒川和枝 東郷町南部地域包括支援センター東郷苑</p> <p>制野司 有識者（学校法人柳城学院）</p> <p>村井良則 有識者（東名古屋医師会医療介護総合研究センターやまびこ）</p> <p>池田寛 有識者（豊明東郷医療介護サポートセンターかけはし）</p> <p>半田清春 東郷町民生委員児童委員協議会</p> <p>野々山次夫 東郷町民生委員児童委員協議会</p> <p>松枝博之 施設サービス関係（愛厚ホーム東郷苑）</p> <p>朝倉隆行 居宅サービス関係（メドック東郷）</p> <p>松山陽二 居宅介護支援事業所（もみの木）</p> <p>神脇和美 住民代表（第1号被保険者）</p>
欠席者	<p>松浦誠司 医師（東名古屋東郷町医師会）</p> <p>山本健二 歯科医師（愛豊歯科医師会東郷支部）</p> <p>柳ゆかり 理学療法士（東郷町リハビリテーション連絡協議会）</p> <p>朝倉隆行 居宅サービス関係（メドック東郷）</p> <p>海老原由美 住民代表（第2号被保険者）</p>
傍聴者	なし
事務局	<p>健康福祉部長</p> <p>高齢者支援課長（進行）</p> <p>高齢者支援課職員 4名</p>
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1 あいさつ 2 委嘱状交付 3 委員長及び委員長職務代理者の選任 4 在宅医療・介護連携推進部会の部会長及び部会委員の指名 5 報告事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 令和6年度の事業計画について (2) 各職能団体からの取組等の報告について 6 議題 <p>東郷町の地域課題について</p>
配布資料	次第

資料 1	令和 6 年度事業計画（新規事業、見直し事業、重点事業のみ）
資料 2-1	令和元年度から令和 5 年度分 地域課題集計表
資料 2-2	令和元年度から令和 5 年度までの地域課題まとめ
資料 2-3	令和元年度から令和 5 年度分 地域課題集計表詳細（参考）

1 あいさつ

副町長	<p>お忙しい中、お集まりいただき感謝申し上げます。日ごろは東郷町の福祉行政に多大なご理解をいただいておりますとお礼申し上げます。</p> <p>新たに委員になられた方、それぞれの立場から忌憚のない意見を頂戴したい。引き続きの人、活発な意見交換をよろしくお願ひしたい。</p> <p>今年度 4 月より第 9 期の高齢者福祉計画が始動した。私が福祉部長のときが第 6 期の高齢者福祉計画だった、着実に回数を重ねてきている。3 年ごとに時々の高齢者の実情に合わせて、計画内容の改定をしている。今回は「支えあいのまちづくり」を重点施策として高齢者のみなさんが住み慣れた地域で生活を続けられるように体制を整えること必要である。目指す姿に向けて議論をしてもらおう。たくさんある課題が複雑に絡み合ってくる。例えば、住まい、医療と介護、生活支援、介護予防について絡んでくるが、こういったものを一体的に提供していくことが地域包括ケアと認識をしている。この後、事務局から議題として報告があるかと思うが、東郷町の地域課題について大変多く取り残されていると思う。</p> <p>関係機関の皆様が連携を取り合いながら、進めていくことが大切。意見交換ができることが必要。</p> <p>それぞれの立場から忌憚のないご意見をいただきたく思う。委嘱期間は 3 年と聞いているため、引き続きの力添えをお願いしたい。3 年間よろしくお願ひいたします。</p>
-----	---

2 委員長及び委員長職務代理者の選任

事務局	委員長の推薦をお願いする。
委員	制野委員を委員長に推薦する。
事務局	ご異議なしということで、委員長を制野委員をお願いする。あいさつと委員長職務代理者の指名をお願いする。
委員長	<p>5 期からこの会議に携わっており、皆さまの知恵を拝借して座っている。第 9 期高齢者福祉計画は、地域福祉の発展に寄与すべきである。第 9 期高齢者福祉計画の継続的な課題、将来の課題を掘り下げて 1 つ 1 つ丁寧に掘り下げていく。忌憚のないご意見を頂戴したい。よろしくお願ひします。</p> <p>委員長職務代理者に松浦委員を指名する。</p>
事務局	ご異議なしということで、松浦委員に委員長職務代理者をお願いする。

3 在宅医療・介護連携推進部会の部会長及び部会委員の指名

委員長	部会委員に、松浦委員、山本委員、佐藤委員、福島委員、中村委員、荒川委員、
-----	--------------------------------------

	松山委員、朝倉委員、池田委員を指名し、委員長には松浦委員を指名する。
事務局	ご異議なしということで、委員及び委員長をお願いします。

4 報告事項

(1) 令和6年度の事業計画について

事務局	資料説明。資料1
委員長	充実した体制を整えられていると感じた事務局から説明を頂いた。ご意見・ご質問はあるか。
委員長	いくつかの一般介護予防教室を地域で実施されているとのことだが、教室の評判はいかがか。
事務局	地域で実施する魅力は近いから来ることができるというところ。地域の人とおしゃべりを楽しんだり、逆に体操だけを目的に来る方もいておしゃべりをされない方もいる。いこまい館などの教室もあり、地域よりそちらを選ばれる方がいる。人それぞれの目的をもって来られていると感じている。対象者も幅広くなっている。若い方は60代の方もいれば90代の方もいる。要介護・要介護認定を受けている人もデイサービスに行きながら、地域の教室へ通いつづけてもらえる体制ができつつある。介護保険サービスを活用しても、地域とのつながりも持ち続けてもらえると思う。
委員長	大変多くの一般介護予防教室を実施されており、社会参加する場所がなければ、社会参加を促すことができないため、大変良い体制が整ってきていると感じた。他にご意見・ご質問はある委員はいるか。
委員	教室に来られない人への働きかけはどうしているか。
事務局	栄養パトロール事業で健康不明層の実態把握事業を行っており、普段から包括支援センターの活動で働きかけをしたり、事業間連携で認知症カフェの参加者にも案内をしたり、様々なところで実施で周知をしている。またサロンの冊子を作成しているほか、くらしの応援ガイドブックなど社会資源の冊子がある。社会参加ポイントの冊子もあり、一般介護予防、老人クラブ、地区のサロンなどのに参加をするとポイントが付与され、ポイントが貯まると商品券と交換できるなどインセンティブをつけて動機づけをしている。より多く参加してもらえるように仕組みづくりをしている。住民同士の横のつながりを大切にしてもらいたいと思っている。住民同士のロコミもあると感じている。民生委員さんの活動の中で、ひとり暮らし訪問等で案内してもらったりしている。民生委員さんも教室に積極的に参加をされ、協力体制がある。
委員	認知症ボランティアの具体的な内容は。
事務局	アルツハイマー月間の展示の制作やイベントの手伝い、認知症カフェの運営の手伝いをしてもらっている。

(2) 各職能団体からの取組等の報告について

委員長	各職能団体から取組の報告をお願いします。指名するため指名された委員は発言
-----	--------------------------------------

	を2～3分程度でお願いします。
委員	薬剤師会は月1回第4週木曜日に日進東郷豊明市の定例会がある。医師からの勉強会や日本薬剤師会からの情報共有など行う。市町村の薬剤師会でホームページを立ち上げるよう指示あり、立上げをしたところである。
委員	訪問看護連絡協議会は令和2年から日進市と共同で立上げをし、コロナの直前だった。在宅サービスは日進と東郷と重なっていることが多く、合同で実施している。かけはしの協力で講習会が実施できている。まだまだ訪問看護は住民に知られていない。BCPの策定を令和5年度は力を入れた。包括や居宅介護支援事業所にアンケートを聴取した。訪問看護ステーション同士で協力体制で実施できているため、コロナの時も安心して業務をすることができた。地域との連携課題を考えたい。
委員	社協では生活困窮者向けに、食糧支援の満腹BOXを用意している。令和5年度は61件の実績あり。貸付まで行ってないが、支援をしている。高齢者のみならず、障がい者へのサービスたんぼぼ事業所、コスモスの家の運営もしている。一方で施設の老朽化が進んでおり経営の厳しさを感じている。人材も集まらず苦慮している。重層的支援体制整備事業では、令和7年度本格実施に向けて体制を整えていく。地区社協では和合ヶ丘地区をモデルとして学習会を継続している。通いの場づくりや困りごとを把握することに努めている。昨年度BCPを策定し、今年度災害時を想定した災害ボランティアセンターの立ち上げ訓練を年2回実施をしていく予定。
委員	包括の柱として、総合相談を中心に権利擁護や認知症支援など幅広く行っている。その中でも北部包括は、介護支援専門員、介護支援専門員連絡会及び研修会、多職種ミーティングやカンファレンスに力を注いでいる。認知症キャラバン・メイトとしても協力をしている。令和6年6月から認知症カフェをいこまい館と福祉センターで実施する予定。
委員	認知症カフェを第2・4日曜日にデイサービス東郷庵の場所を活用して実施している。昨年度認知症サポーター養成講座を受けた3人がボランティアとして活躍してくださっている。現在は毎回参加者が30人を超える。認知症があってもなくても、赤ちゃんも来てくれて、男性介護者の集いのメンバーも参加をしている。地域共生社会の縮図を見ているようだ。お元気サロンは理学療法士や管理栄養士など専門職を招いて、盛況。参加者もじわじわ増えている。南部包括は不便な立地にある。巡回バスは1日3本しか止まらない。足がないと来れないため、サロンに出向くようにしている。令和5年度は延べ96回サロンに出向いた。出向くことで地域の方と顔の見える相談しやすい関係性を構築していきたいと思っている。本当に困っている人はSOSが出せない。相談に繋いでくれる人も増やしていきたい。
委員長	様々な取り組みをしていただいている。取り組みについて定期的に検証していくべきではないかと感じる。
委員	研究センターの事業は管内（3市1町）クリニックの先生に対して在宅実態調

	<p>査をしている。令和5年度管内の高齢者の地域の入院状況（どこの病院に前期・後期高齢者別で分けた）の詳細を調査した。地域住民向けに健康教育講座を開催し、東郷町民会館で実施した。専門職向けにはここ数年ACPの講座を開催した。権利擁護支援センターあすライツと共催で研修を実施した。</p> <p>新規で令和6年5月から東郷町在宅支援運営センターの委託を受けて開始した。令和6年4月から本来なら稼働すべきであったが、人材確保が一番ネックであり、体制を整えているところ。地域の医療関係者の協力をいただきながらということになるため、医療介護の関係者の皆様よろしく願います。進捗は介護連携推進部会で報告をする。</p>
委員	<p>在宅医療介護連携の普及啓発に当たり、多職種の連携ということで地域包括ケアを進めていくため専門職向けの研修を行っている。多職種人材育成研修会、地域にある地域課題を取り上げて実施をしていく。</p> <p>人材育成研修会を開催している。多職種ミーティング・カンファレンスを町と一緒にやっていく。特に地域資源や制度ができた後、どのように活用を促していくかについて、目的をもって実施をしていく。事例を見直すことではなく、ケースを通して今後どのような選択をするか、ケアプランニングの見直しを課せられている。修正を求めていく必要がある。</p> <p>研修会を1回やっただけでは難しい。</p> <p>多職種ミーティングやカンファレンスは専門職が多く集う場所で、町のこういった方向に向かっていきたいのか、実際に住民まで届くために、専門職にまずは知ってもらう必要があるため、多忙な中であるが理解をしていただきたい。</p>
委員	<p>一番身近に接しているのは民生委員だと思う。相談事項、緊急性のあるものは個々に対応をしていたが、今回までマニュアルらしいマニュアルがなかったので、この度マニュアルを作った。各行政機関との連携マニュアルとなっており、今まで行政で作ってもらっていたが、それでは間に合わないので、すべて民生委員に任せてもらい作成をした。受け身ではなく自分たちから動こうと思いマニュアルを作った。掲載されている諸団体に、連絡先等が正しいか確認をとっているところ。確認が取れ次第、民生委員児童委員連絡協議会で配布を予定している。</p> <p>能登半島の地震で、日ごろからの備えの重要性を実感した人も多いと思う。緊急時における避難行動要支援者名簿はあるものの、現在民生委員が実際に活動を行おうとしているものとギャップがあるため、役場の関係部署と打合せをしていく必要がある。役場の関係部署と連携をとり、進めていきたい。どうしたらより活用できるかを検討していきたい。</p> <p>今までは民生委員は受け身が多かったが、受け身ではなく、こちらから出向けるようにしていく。</p>
委員長	<p>大変頼もしい意見である。期待したい。</p>
委員	<p>健康支援課は2つのグループがある。地域保健係では結核やはこどもの難病を主な業務としている。こころの健康推進グループでは自殺対策、アルコール対策、ひきこもり対策を主な業務としている。精神障がい者の地域移行支援なども行っ</p>

	ている。
委員	成人保健担当として、特定健診、がん検診、ウォーキングなど健康にいいことをしてもらおうとポイントが貯まる健康マイレージ事業を実施しており、健康増進事業を進めている。高齢者には、フレイルチェック事業や栄養指導も力を入れている。今年度から40歳から69歳のがん検診の助成を拡大し、今までは10年に1回助成をしていたが、今回から2年に1回、大腸がん、乳がん、子宮がん検診が無料となる。町内在住の職員なども対象となる。職員の健康づくりも大切であるため、周知をお願いしたい。6月1日から申込みが始まり、LINEでも申込みが可能である。
委員長	大変頼もしい意見である。期待したい。

5 議題

東郷町の地域課題について

事務局	資料説明。資料2-1～2-3
委員長	事務局からボリュームのある説明を頂いた。あまり時間のない中であるため、1人ずつ意見を聞くことは難しいが、意見があれば伺いたい。
委員	資料2-2、右端「令和5年度までの動き、令和6年度の新たな動き」の欄について、空欄のところがある。例えば移動手段について、大きなが課題であると思うが、この課題については、高齢者支援課としての解決の糸口があるか。地域にも偏りがあると思う。ニーズもまちまちである。デマンドタクシーはある程度内容が決まっていて、改善の余地もない部分もあると推測する。今後ニーズ調査をする予定があるか。
事務局	空欄の部分については、取組内容が決まっていないため空欄となっているという理解で正しい。移動手段については、公共交通などの兼ね合いもあり、高齢者支援課のみで解決することは難しい課題である。他部署との連携が必要であるところとらえているが、具体的な動きの予定は特にない。今後の課題である。
委員	日進市が移動支援のモデル事業に手上げた。3か年で実施する事業であったが、事業が終わった後も各々の地域で継続されている。車両が必要であったり、ドライバーが必要であったり、ある程度行政のバックアップが必要でありながら、地域のニーズにあったものを実施されている。簡単な問題ではないが、一つの参考になればと思う。
委員長	他に意見や質問はあるか。
委員	全体をとおして、周知をできていないことが課題に挙げられている。地域資源や制度は作られているが、追いついていない、結び付いていない。 相談できる場所、相談しやすい場所はその人によって異なる場合がある。どう繋ぐつもりなのか、困っている人をイメージができていないのか。誰に相談をするかによって、繋ぎ方が変わってくるのではないかと。
委員長	交通整理の必要がある。この会議で解決できる課題があるといい。行政にすべて任せたらいいというわけではないと感じている。デマンドタクシーはHPを見

	<p>ると一定の成果は出ているが、他市町へは行けない 行政の場で分断をしてもいけない 少なくとも会議で決めたところは行政に提案できる ファーストステップまでは来ているが、セカンドステップでどうしていくかという段階まで来ている。セカンドステップでは課題をつぶしていく 個人の意見ではなく全体として。個人の意見が増えるのではなくて、住民の多くの意見であることに繋がると思うので丁寧に扱っていきたい。 次回は掘り下げていく、今回はこちらまで。</p>
事務局	<p>まだ開催して間もないため集約はできていないが、これから本人たちの声を多く聴き、政策につなげたいと思っている。MCI などの軽度認知症の方を集客することが課題と認識している。</p>

6 その他

委員長	<p>事務局からすべて説明を頂いた。遡って、その他意見がないようであれば、議題は以上とする。進行を事務局へ戻す。</p>
事務局	<p>次回の地域ケア推進会議は令和3年9月頃を予定している。日程が決定次第案内する。 また、第1回在宅医療・介護連携推進部会は令和6年6月10日午後2時からを予定。来週中に案内を送付する。 本日はありがとうございました。</p>

以上